

# 大使館情報

2022年4月

## 【目次】

### 1. ブラジル・マクロ経済情勢

- (1) 経済情勢
- (2) 経済政策等
- (3) 金融政策
- (4) 為替市場
- (5) 株式市場

### 2. ブラジル政治情勢

#### [内政]

- (1) ボルソナーロ政権の支持率
- (2) 2022年大統領選に関する世論調査
- (3) ボルソナーロ大統領の入退院
- (4) 閣僚の交代

#### [外交]

- (1) ウクライナ人の人道的な受入のための政令の発効
- (2) ウクライナ情勢に関する伯英首脳及び伯米外相会談
- (3) ウクライナからの自国民及び他国民待避オペレーションの実施
- (4) フランサ外務大臣のカーボヴェルデ、ポルトガル及びポーランド訪問
- (5) 伯サントメプリンシペ外相会談

### 3. トピックス

- (1) 林大使の日伯柔道オンラインイベント「Workshop de Judô nas Escolas de 2022」への参加
- (2) 林大使のパラナ州公式訪問（2022年3月15～17日）

### 4. 大使館からのお知らせ

- (1) 在伯公館 SNS リンク一覧
- (2) 外務省海外安全ホームページ
- (3) ブラジル渡航情報

## 1. ブラジル・マクロ経済情勢

### (1) 経済情勢（3月発表の経済指標）※貿易収支は4月発表。

- (ア) 1月の鉱工業生産指数は前月比▲2.4%、前年同月比▲7.2%となった。
- (イ) 1月の小売売上高は前月比+0.8%、前年同月比▲1.9%となった。
- (ウ) 2月の拡大消費者物価指数（IPCA）は前月比+1.01%となり、前月（+0.54%）から上昇幅は0.57%ポイント拡大。直近12か月累計は+10.54%となり、前月（同+10.38%）から上昇幅は0.16%ポイント拡大した。
- (エ) 失業率（2021年12月～2022年2月）は11.2%となり、3か月前（9～11月）の移動平均11.6%から0.4%ポイント低下した。また前年同期比（2020年12月～2021年2月）の14.6%から3.4%ポイント低下した。
- (オ) 2022年3月の貿易収支は73.8億ドルの黒字。
- (カ) 伯中央銀行が週次で発表しているエコノミスト等への調査（Focus調査）について、3月25日時点で、GDP成長率予測については、2022年は+0.50%（前週から変わらず）で、2023年は+1.30%（前週から変わらず）となった。インフレ率については、2022年は6.86%（前週から0.27%ポイント上昇）で、2023年は3.80%（前週から0.05%ポイント上昇）となった。

### (2) 経済政策等

- (ア) 3月14日、政府は、大統領が燃料に係る税制措置に関する補憲法を裁可したと発表。ガソリン、ディーゼル等を対象に、州税であるICMS（商品流通サービス税）を従量税として各燃料について国内で統一した税率を適用し、課税を1回のみとするもの。また、社会負担金であるPIS/PASEP及びCOFINSについて、ディーゼルや液化石油ガス等（ガソリンは含まず）に対して課されるものを免除する。これを受け、3月25日、CONFAZ（各州及び連邦区の財務担当で構成される審議会）はディーゼルに課されるICMSの全国統一税率について、最大で1.006リアル/リットルとすることを決定した。
- (イ) 3月17日、政府は雇用と経済の回復を促進するため、FGTS（勤続年数保障基金）の臨時引出し、社会的弱者への貸付制度の拡充、小規模ビジネスへのデジタルマイクロクレジット、年金の13月給付の前倒しから成る「所得と機会プログラム」を公表。ゲデス経済大臣は、当該プログラムによるブラジル経済への影響は1,600億リアル以上と発言。
- (ウ) 3月21日、経済省は消費財7品目に対する関税の免税措置（2022年末まで）の他、資本財及び情報通信財への関税を10%引き下げることが発表。対象となる消費財は焙煎コーヒー、マーガリン、チーズ、マカロニ、大豆油、エタノール、砂糖。また、資本財及び情報通信財に係る関税引下げは、2021年3月（10%引下げ）からの追加引下げ。消費財への免税措置はインフレ圧力の緩和、

資本財及び情報通信財に対する引下げは競争力の向上、雇用と所得の創出が目的。

### **(3) 金融政策**

3月15日及び16日に開催された伯中央銀行金融政策委員会 (Copom) において、政策金利である Selic 金利を 100bp 引き上げて 11.75%とすることが決定された (前回2月会合では 150bp の引上げ)。政策金利の引上げは9会合連続。次回会合は5月3日及び4日に開催予定。

### **(4) 為替市場 (レートは伯中銀の公表値から算出)**

(ア) 3月の為替市場は 4.74~5.13 レアル/ドルで推移。

(イ) 月の前半は 5.01~5.13 レアル/ドルで推移。ウクライナ情勢の他、国内における燃料価格を巡る動向等を材料に上下し概ね横ばいとなった。

(ウ) 月の後半は 4.74~5.13 レアル/ドルで推移。他通貨との金利差の他、コモディティ価格上昇等を背景とする資源国への資金流入により、レアル高傾向となった。

### **(5) 株式市場**

(ア) 3月の株式市場は 108,959~120,260 ポイントで推移。

(イ) 月の前半は 108,959~115,174 ポイントで推移。ウクライナ情勢の他、国内での燃料価格を巡る動向や中国での感染拡大等を材料に概ね下落傾向となった。

(ウ) 月の後半は 111,112~120,260 で推移。コモディティ価格の上昇や伯中銀総裁による金融引締めサイクル終了が近付いていることを示唆する発言等を材料に上昇傾向となった。

## **2. ブラジル政治情勢（3月の出来事）**

### **【内政】**

#### **（1）ボルソナーロ政権の支持率**

3月25日、ダッタフォーリャ社が3月22日から23日にかけて全国2,556人の16歳以上のブラジル人を対象に実施した世論調査の結果を発表した。ボルソナーロ政権の評価に関する回答結果は次のとおり。

「良い/とても良い」:25%(昨年12月比+3%)、「普通」:28%(昨年12月比+4%)、「悪い/とても悪い」:46%(昨年12月比-7%)。

#### **（2）2022年大統領選に関する世論調査**

3月25日、XP/Ipespe社が3月21日から23日にかけて1千人を対象に実施した世論調査の結果によれば、第1回戦投票で投票したい人物はルーラ元大統領(PT)が44%(前月比+1%)、ボルソナーロ大統領(PL)が26%(前月同様)となっている。

#### **（3）ボルソナーロ大統領の入退院**

3月28日夜、ボルソナーロ大統領は腹部の不快感を訴えブラジリアの軍病院に入院した。大統領は、翌29日朝には退院し、同日開催されたマツトグロッソ・ド・スル州の橋梁の開所式に参加した。

#### **（4）閣僚の交代**

3月31日までに、本年10月の選挙に立候補する閣僚が離任し、後任が着任した。選挙のために辞任した閣僚と、その後任は以下のとおり。

(ア) アフーダ政治調整庁長官、後任：ファリア大統領府官房長。

(イ) ブラガ・ネット国防相、後任：ノゲイラ陸軍参謀長

(ウ) ロレンゾーニ労働社会保障相、後任：オリヴェイラ社会保障庁（INSS）長官

(エ) ポンテス科学技術相、後任：アルヴィン科学技術省起業イノベーション局長

(オ) クリスチーナ農務相、後任：コルデイロ農務省次官

(カ) フレイタス・インフラ相、後任：サンパイオインフラ省次官

(キ) マリーニョ地域開発相、後任：フェヘイラ地域解消省次官

(ク) ローマ市民相、後任：ベント市民省戦略問題担当特別補佐局長

(コ) マシャード観光相、後任：ブリト観光公社総裁。

(サ) アルヴェス女性・家庭・人権相、後任：ブリット女性・家庭・人権省女性政策局長

## 【外交】

### (1) ウクライナ人の人道的な受入のための政令の発効

3月3日、ブラジル外務省及び法務・治安省は、ブラジルへ待避するウクライナ人及び無国籍者に対する短期滞在査証及び人道保護目的での滞在の許可の付与を規定した省庁間政令第28号に署名した。ブラジル連邦警察の情報によると、2月24日から3月17日までの間に、ブラジルでは894名のウクライナ人を受け入れた。

### (2) ウクライナ情勢に関する伯英首脳及び伯米外相会談

3月3日、ボルソナーロ大統領は、ジョンソン英首相とウクライナ危機に関する電話会談を行った。また、25日、フランス外相は、ブリンケン米務長官と電話会談を行い、ウクライナにおける人道状況に対する解決策を見いだす必要性について一致し、米州から欧州へのエネルギー供給を増加させる取り組みについて協議した。

### (3) ウクライナからの自国民及び他国民待避オペレーションの実施

3月7日、ブラジル政府は自国民及び他国民の待避のため、ポーランドへ向けに輸送機 KC-390 ミレニアム輸送機を派遣した。往路ではウクライナ国民向けの人道支援物資 11.5 トンを輸送し、復路(フランス外相も同乗)では自国民 42 名、ウクライナ人 20 名、アルゼンチン人 5 名及びコロンビア人 1 名を輸送した。輸送機は 10 日にブラジルへ帰着し、搭乗者らはボルソナーロ大統領や同大統領夫人らに出迎えられた。

### (4) フランス外務大臣のカーボヴェルデ、ポルトガル及びポーランド訪問

フランス外相は、3月7日から9日にかけて、カーボヴェルデ、ポルトガル及びポーランドを訪問した。カーボヴェルデでは、ソアーレス外相との会談でウクライナ情勢や本年のCPLP外相会合等について協議した。ポルトガルでは、在ポルトガル総領事ら、コスタCPLP事務総長、レベロ・デ・ソウザ大統領、シルヴァ外相との会談を行い、うち大統領及び外相との会談では、ウクライナ情勢及びブラジルの独立200周年記念行事等について協議した。ポーランドでは、ラウ外相との会談にてウクライナ情勢や二国間貿易・投資の拡大等について協議し、ブラジルが輸送した人道支援物資の受け入れ及びウクライナから待避してきた自国民らの出迎え等を行った。

### (5) 伯サントメプリンシペ外相会談

3月24日、フランス外相は、テンジュア・サントメプリンシペ外務大臣と、二

国間関係、C P L P 及び国際問題等について協議した。また、フランサ外相は、昨年サントメを襲った豪雨によって被害を受けた人々に対する人道支援の提供を発表した。

### **3. トピックス**

#### **(1) 林大使の日伯柔道オンラインイベント「Workshop de Judô nas Escolas de 2022」への参加**

3月9日、林大使は、日本柔道連盟・ブラジル柔道連盟が共催した「Workshop de Judô nas Escolas de 2022」に参加し、挨拶を行った。本イベントは、東京オリンピック・パラリンピックを契機に世界中にスポーツの魅力を知ってもらうべく日本政府が進めている Sport For Tomorrow 事業に基づいて実施されたもの。

同イベントには日本側から、山下泰裕・日本オリンピック委員会会長、室伏広治・スポーツ庁長官からビデオメッセージが寄せられ、シルビオ・アカシオ・ボルジェス伯柔道連盟会長、伯教育省ヘルバー・リカルド・ヴィエイラ基礎教育担当補佐官らが参加。

同イベント後、岡田弘隆・筑波大学准教授による子供向けの柔道指導の講習会が行われた。

※イベントは以下のリンクから視聴可能。

[https://www.youtube.com/watch?v=AlhXbq27t4&list=RDCMUCwgJ0TK-RkDrV7DT6ljqkA&start\\_radio=1](https://www.youtube.com/watch?v=AlhXbq27t4&list=RDCMUCwgJ0TK-RkDrV7DT6ljqkA&start_radio=1)

#### **(2) 林大使のパラナ州公式訪問（2022年3月15～17日）**

3月15～17日の間、林大使はパラナ州を公式訪問した。15日、林大使は、クリチバ日伯文化援護協会（Associação Cultural e Beneficente Nipo-Brasileira de Curitiba）を訪問し、柔道場、太鼓練習場、テニスコート、温水プール等の施設を視察。その後、同協会主催の大使歓迎会に参加。午後には、兵庫姫路会館内に設置された兵庫県事務所を訪問。同事務所では、兵庫県産の海苔や地酒のPR活動、ラ米兵庫県人会への支援、兵庫県の企業招致活動、総領事館との協力イベントの実施について説明を受け、同事務所内のパネル展示を見学した。兵庫姫路会館内のパラナ日伯商工会議所も訪問し、パラナ州武官庁軍警察音楽隊による両国歌演奏をはじめとする歓迎式典が行われた後、事務所内を視察した。続いて、同会館の講堂にて、商工会議所メンバーによる活動紹介等が行われた。また、クリチバ日伯学生寮及び隣接された日本語講座構内を見学し、その後、ツカハラ寮長、山中校長及びその他の同校職員との懇談を行った。最後に、浜田在クリチバ総領事公邸にて、同地の日系代表者と共に懇談を実施。



クリチバ日伯文化援護協会視察



パラナ日伯商工会議所視察

16日、ラチーニョ・パラナ州知事を表敬訪問し、日系社会、環境政策、日パラナ経済関係等に関して意見交換を行った。また、ジャムール IPPUC 総裁を表敬訪問し、15年におわたる JICA を通じた同研究所への協力、今般開始技術協力プロジェクト「持続可能な都市開発能力強化プロジェクト（2022～2024）」等に関し、意見交換を実施。続いて、グレッカ・クリチバ市長を表敬し、日系社会、同市における環境政策等に関し意見交換を行った後、同市長主催の歓迎式典に参加した。



ラチーニョ・パラナ州知事表敬



グレッカ・クリチバ市長表敬

また、チンガイ公園のウクライナ・メモリアルを訪問し、ウクライナ・コミュニティ代表者と懇談。林大使からは、日本国民を代表して、連帯を表明する旨のメッセージを伝えた。なお、伯にはラ米最大規模のウクライナ系社会が存在し、伯全土で約60万人のウクライナ系移民のうち約8割がパラナ州に居住、州内では特にプルデントポリス市やクリチバ市に居住している。2月25日には、クリチバ市のウクライナ系協会、ウクライナ文化団体、伯ウクライナ中央協会により、ウクライナの平和と戦争の終了を願う大規模ミサが、ウクライナ・メモリアル内で開催された。最後に、林大使は、クリチバの有望若手日系人と共に懇談を行った。



ウクライナ・コミュニティ代表者との懇談



クリチバ若手日系人との懇談

17日、ブラジル住友ゴム社を訪問し、蒲原社長より活動の報告を受け、意見交換を行った後、同社の工場及び拡張中の建設サイトを視察。続いて、パラナ州に進出している日本企業関係者と共に、懇談を行った。最後に、ガゼッタ・ド・ポーヴォ紙のインタビューに対応し、ロシア・ウクライナ戦争に対する日本の立場、伯における大統領選挙、日本とブラジルの経済協力に関する質問等に答えた。



ブラジル住友ゴム視察

## 4. 大使館からのお知らせ

### (1) 在伯公館 SNS リンク一覧

在ブラジル大使館をはじめ各総領事館及び領事事務所では、SNS にて文化イベントを含め最新情報を随時更新中（以下リンク先をご参照されたい）。

在ブラジル大使館 : [facebook](#) [instagram](#)

在ベレン領事事務所 : [facebook](#)

在マナウス総領事館 : [facebook](#)

在レシフェ総領事館 : [facebook](#) [instagram](#)

在リオデジャネイロ総領事館 : [facebook](#) [instagram](#)

在サンパウロ総領事館 : [facebook](#)

在クリチバ総領事館 : [facebook](#)

### (2) 外務省 海外安全ホームページ

(ア) 各国の危険情報や安全対策等海外赴任、出張及び旅行をする際の留意点を公開している。

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

(イ) 世界各国の在外邦人に対して最低限必要な安全対策を周知することを目的にした「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け海外安全対策マニュアル」を公開している。2021年3月、新型コロナウイルス感染症の感染症とテロといった複合的なリスクへの対処の必要性を伝えるため、番外編として「感染症流行下の安全対策」を追加する増補版を公開した。

[https://www.anzen.mofa.go.jp/anzen\\_info/golgo13xgaimusho.html](https://www.anzen.mofa.go.jp/anzen_info/golgo13xgaimusho.html)

(ウ) 各在伯公館が「在外邦人向け安全の手引き ブラジル」を作成し公開している。

[https://www.anzen.mofa.go.jp/manual/brazil\\_manual.html](https://www.anzen.mofa.go.jp/manual/brazil_manual.html)

(エ) 各公館で四半期毎に「海外安全対策情報」を公開している。在伯大使館の情報（令和3年度第3四半期）は以下のリンク先から。

[https://www.br.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/kaigai\\_anzen\\_taisaku.html](https://www.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/kaigai_anzen_taisaku.html)

### (3) ブラジル渡航情報

(ア) 危険情報

最新更新日：2022年4月1日

[http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsbothazardinfo\\_259.html](http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsbothazardinfo_259.html)

以下の地域が「レベル1：十分注意してください。」となっている。

- ・ブラジリア連邦区
- ・サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市
- ・リオデジャネイロ州大リオ圏
- ・アマゾナス州大マナウス圏
- ・ロライマ州北部
- ・パラ州大ベレン圏
- ・ペルナンブコ州大レシフェ圏
- ・バイーア州大サルバドール圏
- ・セアラ州大フォルタレーザ圏
- ・エスピリトサント州大ビトリア圏
- ・パラナ州大クリチバ圏
- ・リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレ市

(イ) 安全対策基礎データ

安全の手引き最新更新日：2022年2月

[https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure\\_259.html](https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure_259.html)

主要各州、都市毎の犯罪発生状況、防犯対策及び滞在時の留意事項等に加え、査証、出入国審査及び新型コロナウイルス関連情報や大使館、総領事館の緊急連絡先を公開している。

(ウ) テロ・誘拐情勢

最新更新日：2019年6月10日

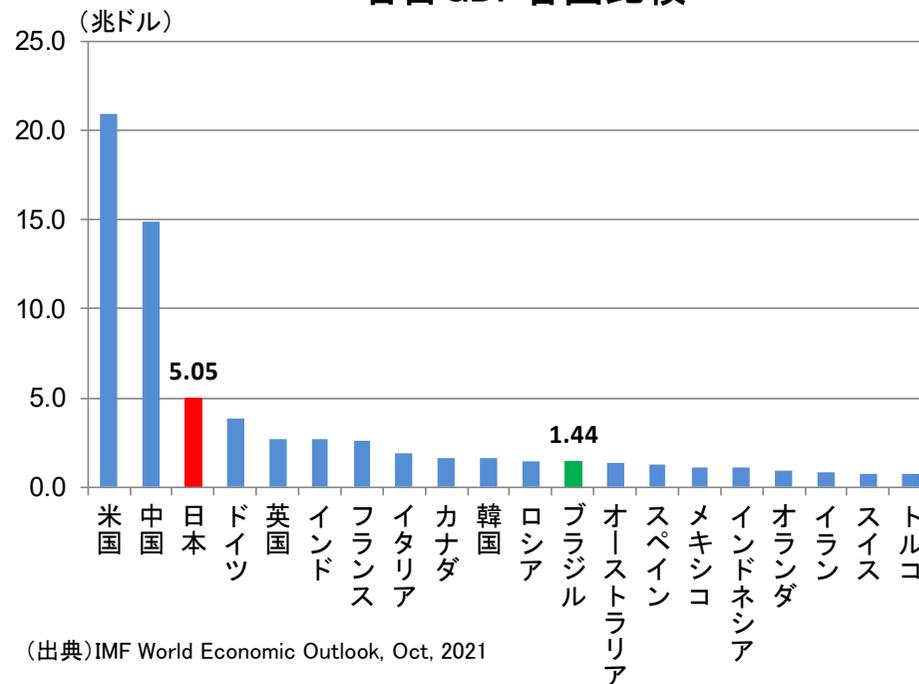
[https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror\\_259.html](https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_259.html)

# ブラジル経済・二国間経済関係概観

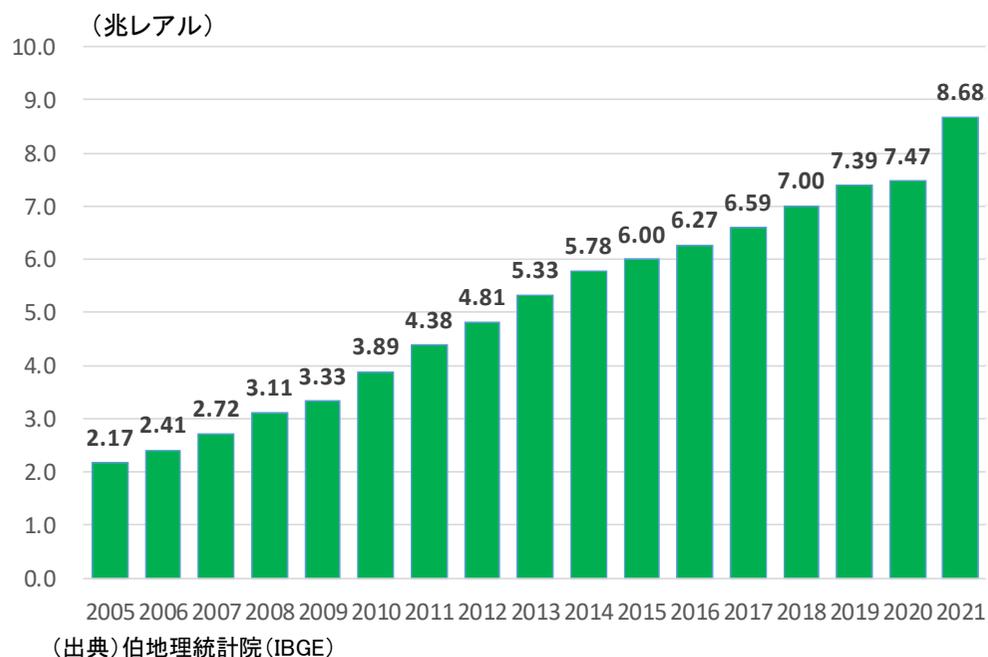
## 1. 経済構造

1. 人口約2億1,331万人、面積約851万km<sup>2</sup>(2021年)
2. 世界第12位の経済規模(名目GDP約1兆4,447億ドル(2020年):日本の約29%)。一人当たりGDP(約6,823ドル(2020年))は、日本の約17%。
3. 世界有数の農業・資源国であるが、産業別国内総生産(GDP)額では第三次産業(サービス業)が高いウェイトを占めている。
4. GDPを需要項目別で見ると、家計消費や総固定資本形成(投資)といった内需が成長に寄与している。

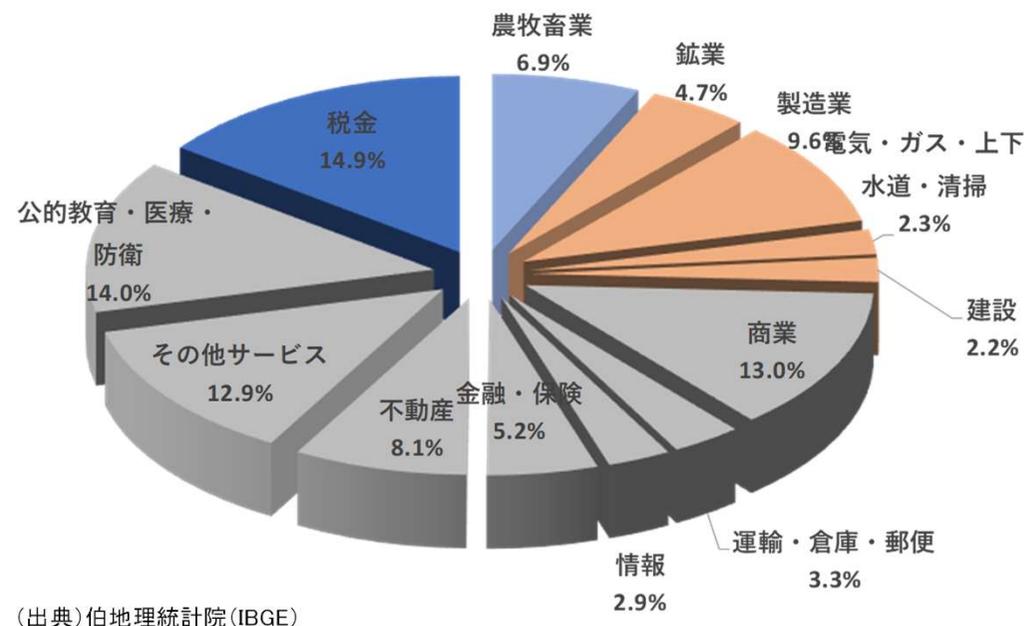
## 名目GDP各国比較



## 名目GDPの推移



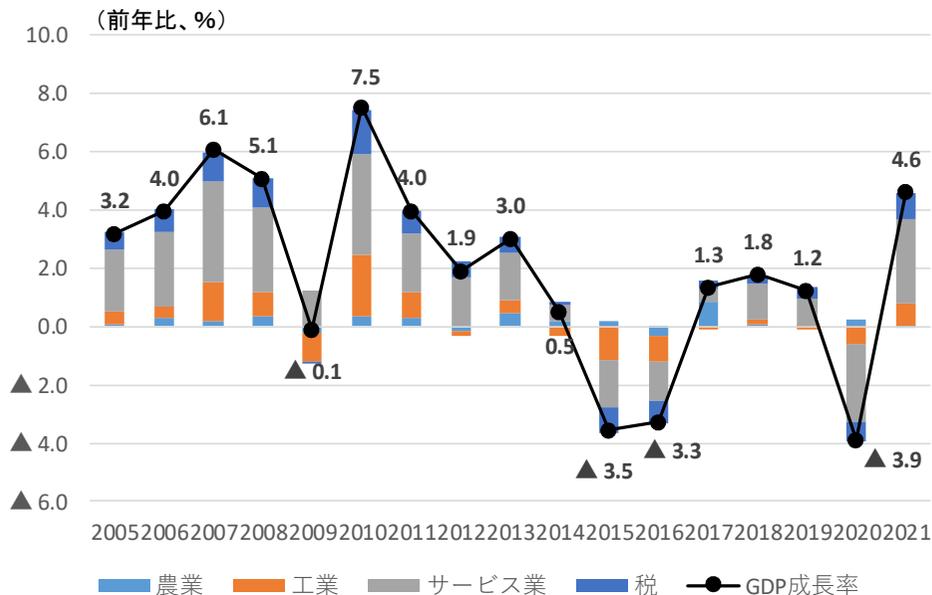
## 名目GDPの産業別構成比(2021年)



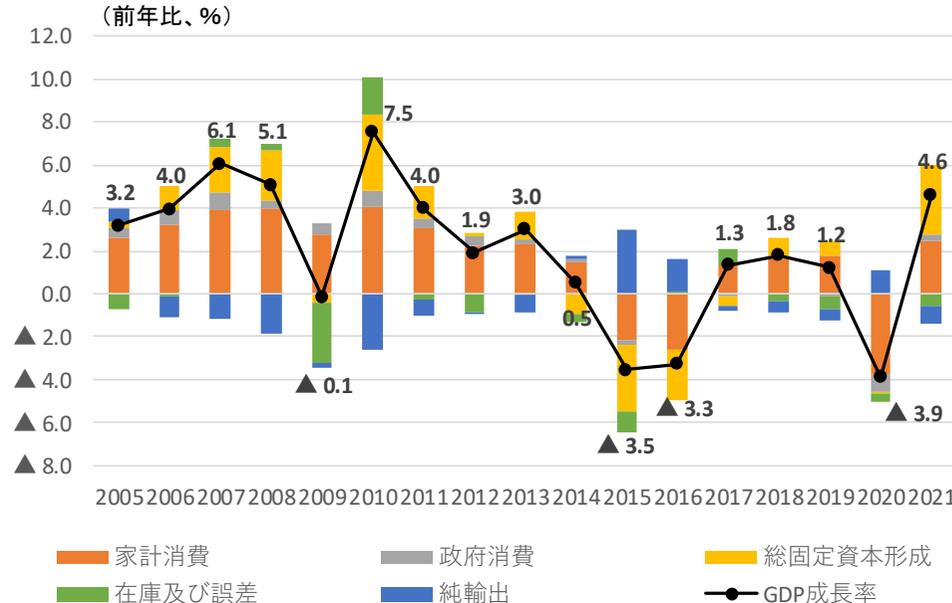
## II. 経済の現状

ブラジル地理統計院 (IBGE) が2022年3月に発表した2021年の実質GDP成長率は前年比+4.6% (2年ぶりのプラス)、第4四半期では、前期比+0.5% (3四半期ぶりのプラス)、前年同期比+1.6% (4四半期連続のプラス) となった。

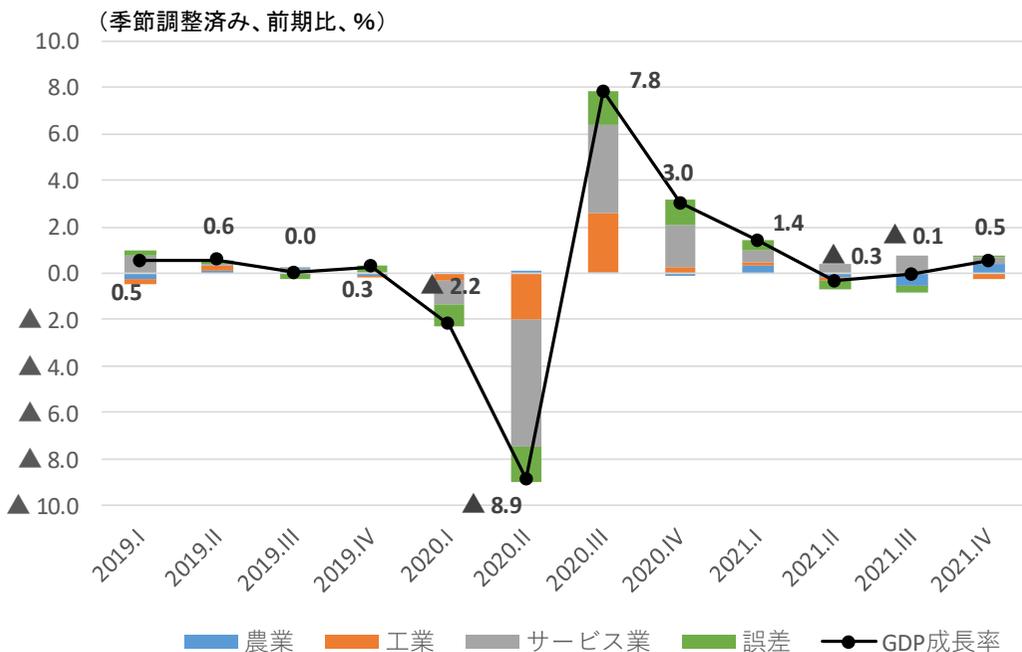
### 実質GDP成長率と産業別寄与度の推移 (暦年)



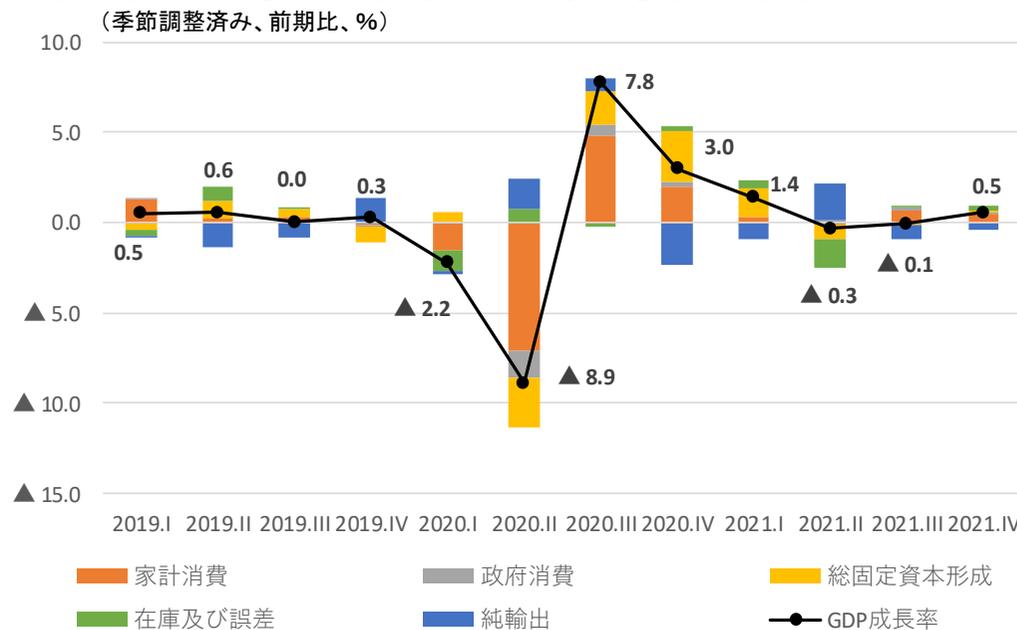
### 実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移 (暦年)



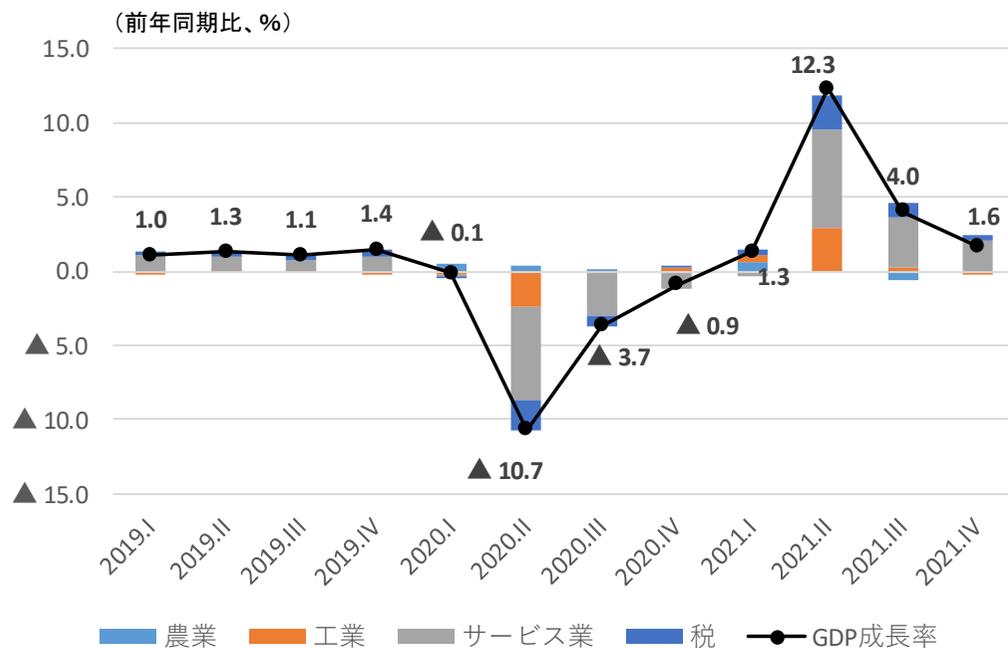
### 実質GDP成長率と産業別寄与度の推移 (四半期)



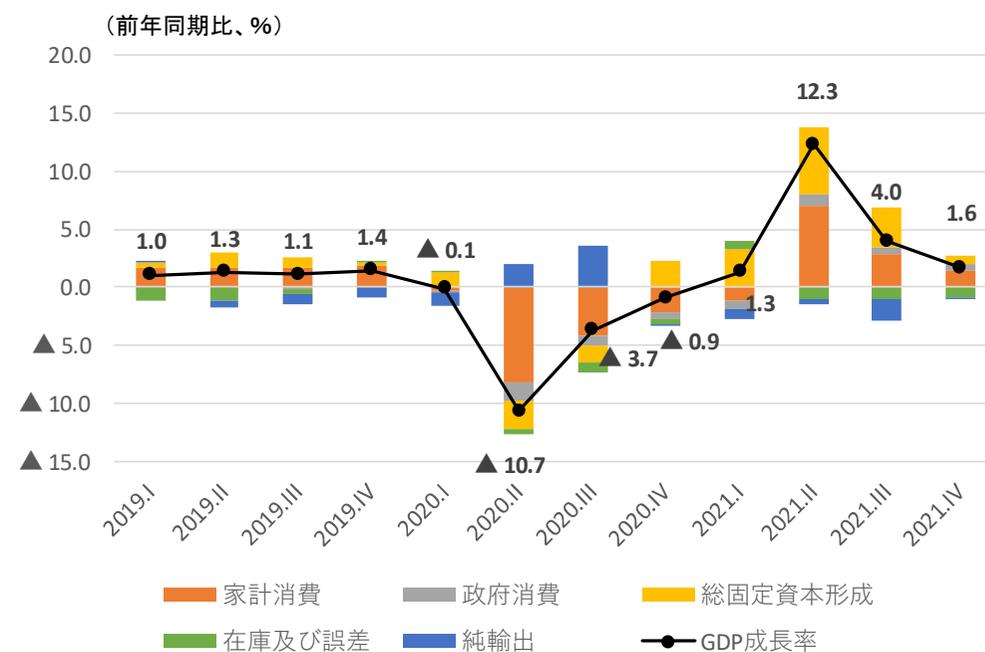
### 実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移 (四半期)



## 実質GDP成長率と産業別寄与度の推移(四半期)



## 実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移(四半期)



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、「在庫及び誤差」はGDP全体から各項目を除いたもの。(出典)伯地理統計院(IBGE)

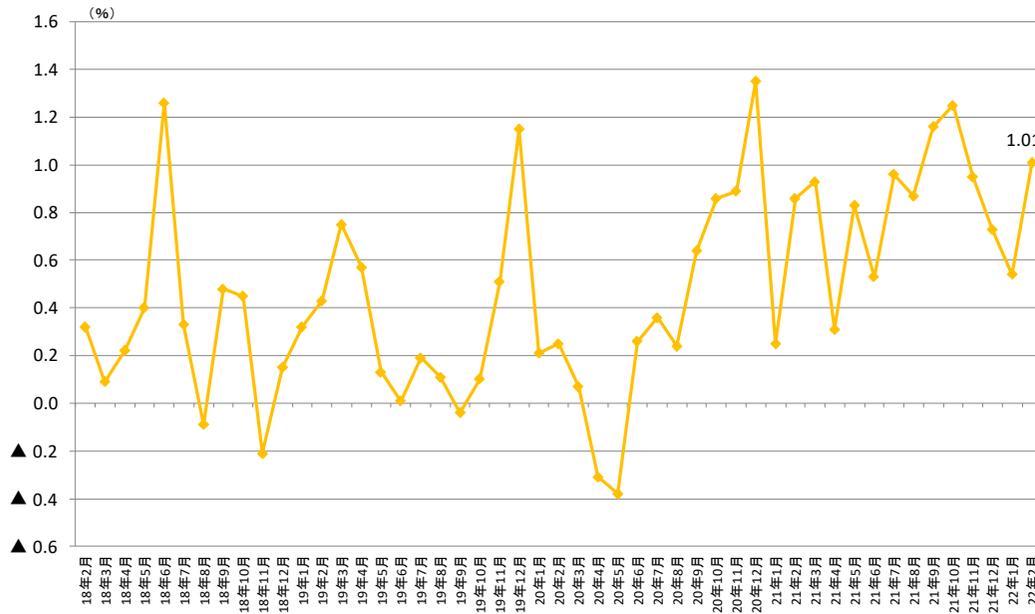
## 《各機関によるGDP成長率見通し》

	2022	2023
IMF (2022年1月)	+0.3%	+1.6%
伯経済省 (2022年3月)	+1.5%	2.5%
伯中銀 (2022年3月)	+1.0%	-
伯中銀Focus (2021年3月25日)	+0.5%	+1.3%

# 物価の動向

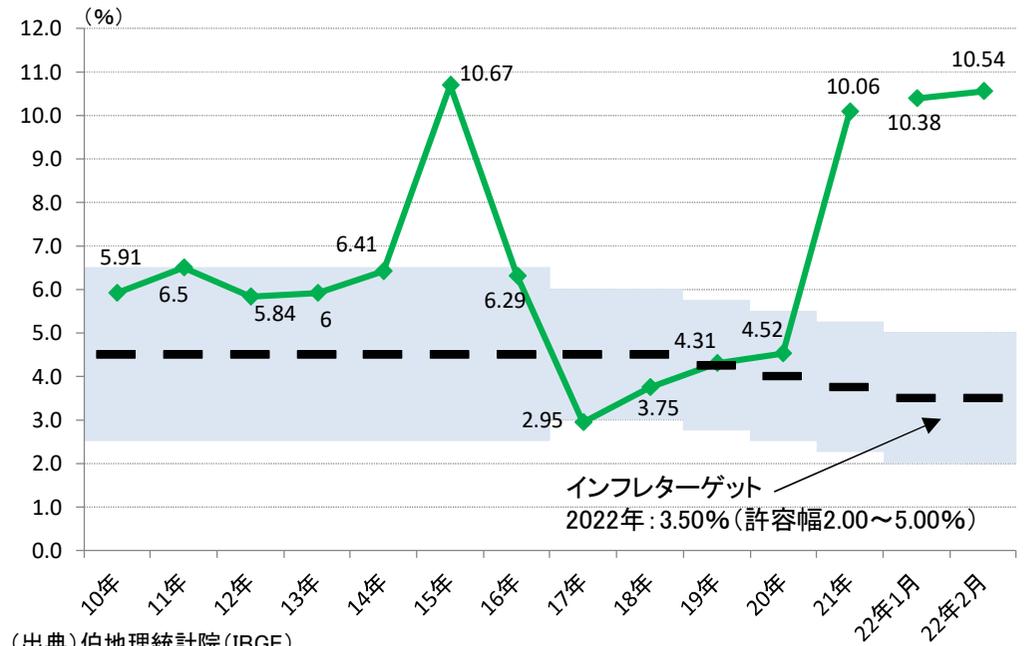
2月の拡大消費者物価指数(IPCA)は前月比+1.01%、直近12か月累計では10.54%となった。

## 拡大消費者物価指数(IPCA)上昇率の推移(各月)



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

## 拡大消費者物価指数(IPCA)上昇率の推移(12か月累計)

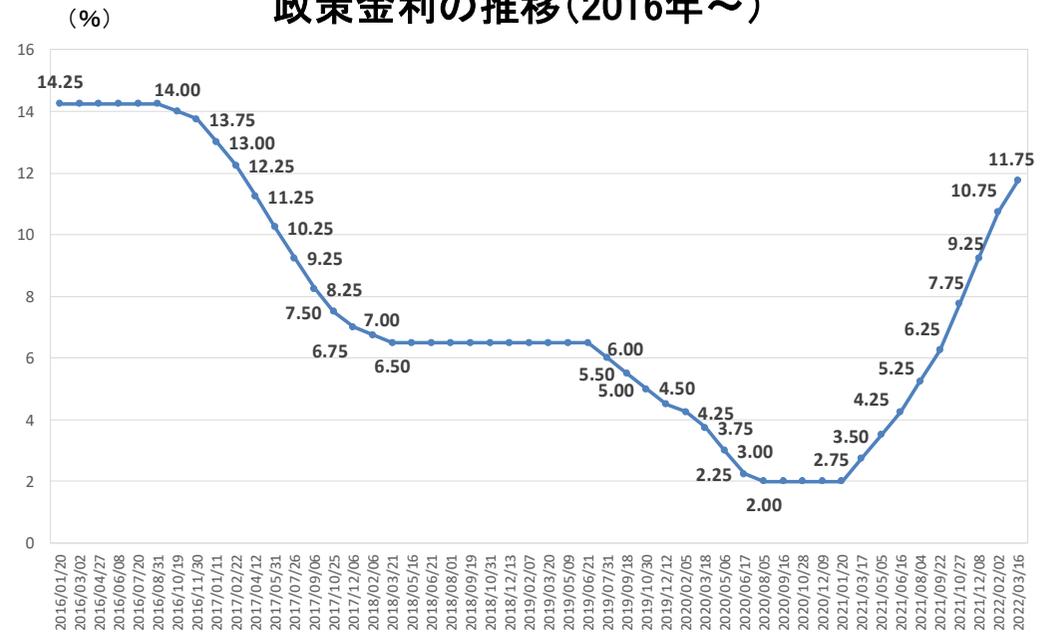


(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

# 政策金利

3月15日及び16日に開催された伯中央銀行金融政策委員会 (Copom)において、政策金利であるSelic金利を100bp引き上げて11.75%とすることが決定された。政策金利の引上げは9会合連続。次回会合は5月3日及び4日に開催予定。

## 政策金利の推移(2016年～)

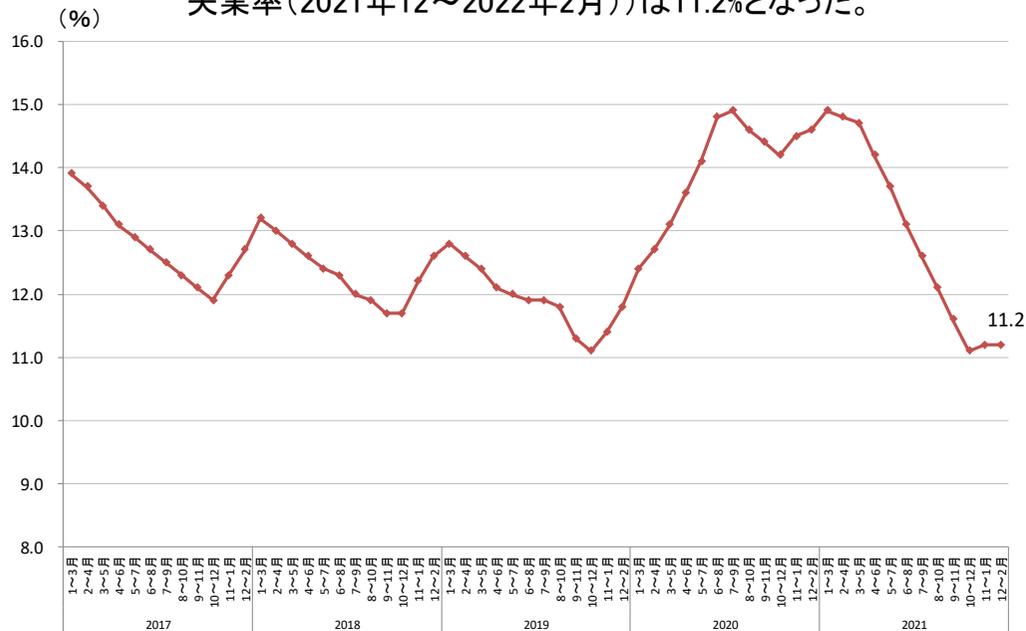


(出典) 伯中央銀行 4

# 労働市場、消費、生産、財政収支の動向

## 失業率の推移(3か月移動平均)

失業率(2021年12~2022年2月)は11.2%となった。



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

## 小売売上高指数の推移(月次)

小売売上高(1月)は前月比+0.8%、前年同月比▲1.9%となった。  
(2014年=100、季調済)



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

## 鉱工業生産指数の推移(月次)

鉱工業生産(1月)は前月比▲2.4%、前年同月比▲7.2%となった。

(2012年=100、季調済)

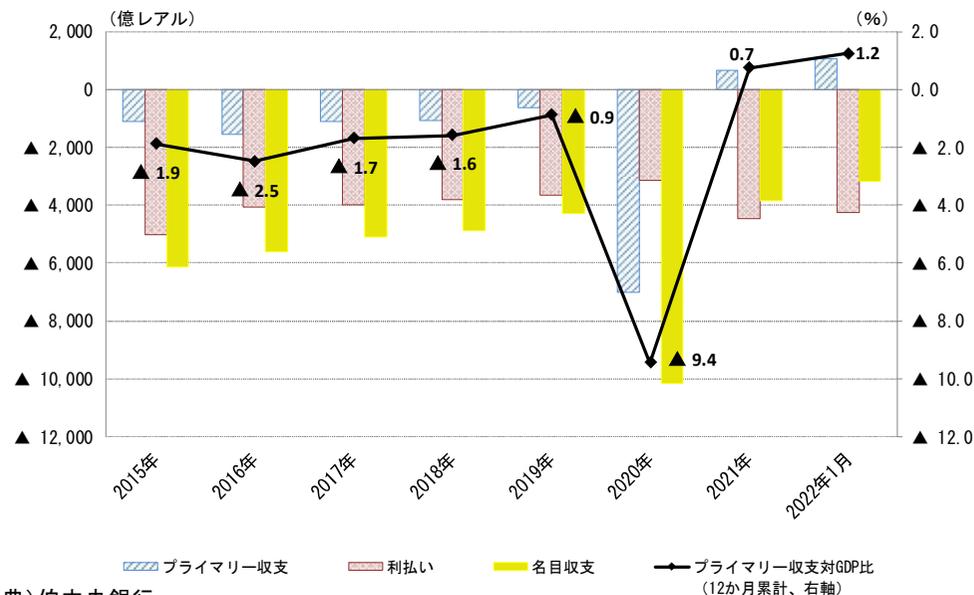


(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

## 財政収支の推移

※2022年4月1日現在、ブラジル中央銀行にて最新データを確認できないため前月分から未更新

公的部門の2022年1月のプライマリーバランスは+1,082億レアルの黒字、利払いは▲4,257億レアル、名目収支は▲3,175億レアルとなった。



(出典) 伯中央銀行

### 国際収支

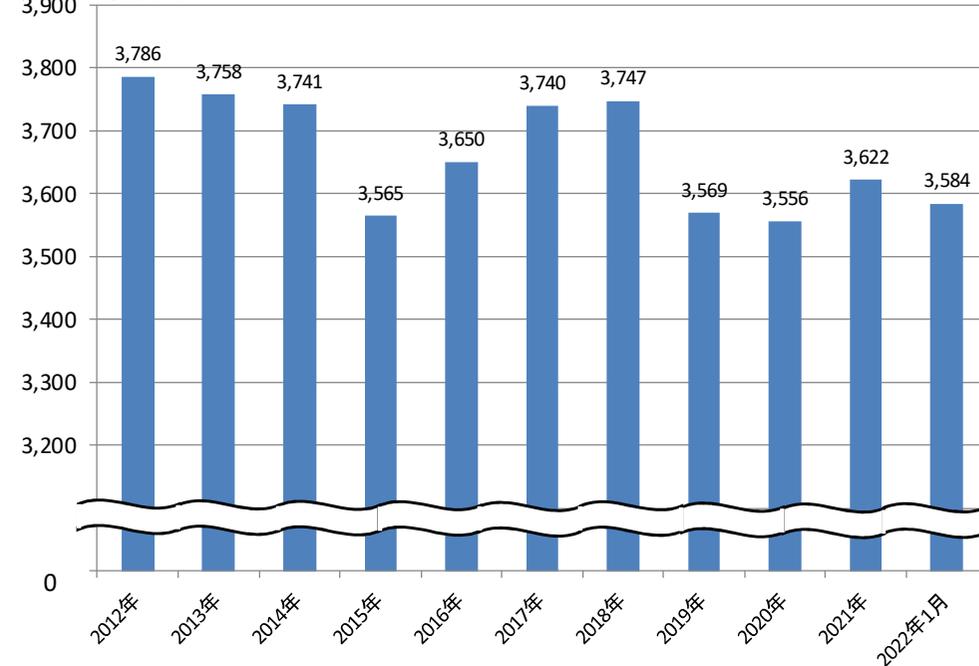
(億ドル)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年 1月
経常収支	▲ 220	▲ 515	▲ 650	▲ 245	▲ 279	▲ 81
貿易収支	573	434	265	324	364	▲ 15
サービス収支	▲ 383	▲ 360	▲ 355	▲ 209	▲ 171	▲ 15
第1次所得収支	▲ 432	▲ 588	▲ 573	▲ 383	▲ 505	▲ 54
第2次所得収支	21	▲ 0	12	23	33	3
資本移転収支	4	4	4	41	2	0
金融収支	▲ 171	▲ 523	▲ 644	▲ 125	▲ 358	▲ 88
直接投資	▲ 475	▲ 761	▲ 464	▲ 413	▲ 273	▲ 28
対外直接投資	213	20	228	▲ 35	192	19
対内直接投資	689	782	692	378	464	47
証券投資	177	69	192	129	▲ 57	▲ 49
金融派生商品	7	28	17	54	▲ 10	▲ 5
その他投資	69	113	▲ 128	247	▲ 159	▲ 6

(出典) 伯中央銀行

### 外貨準備高

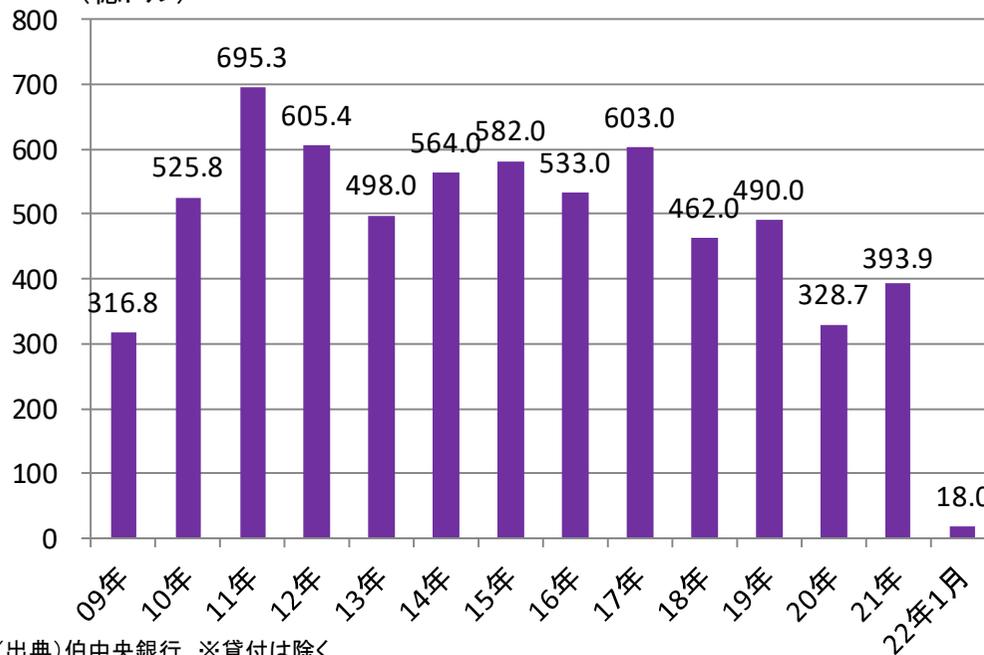
(億ドル)



(出典) 伯中央銀行

### 外国直接投資(資本参加分)流入額

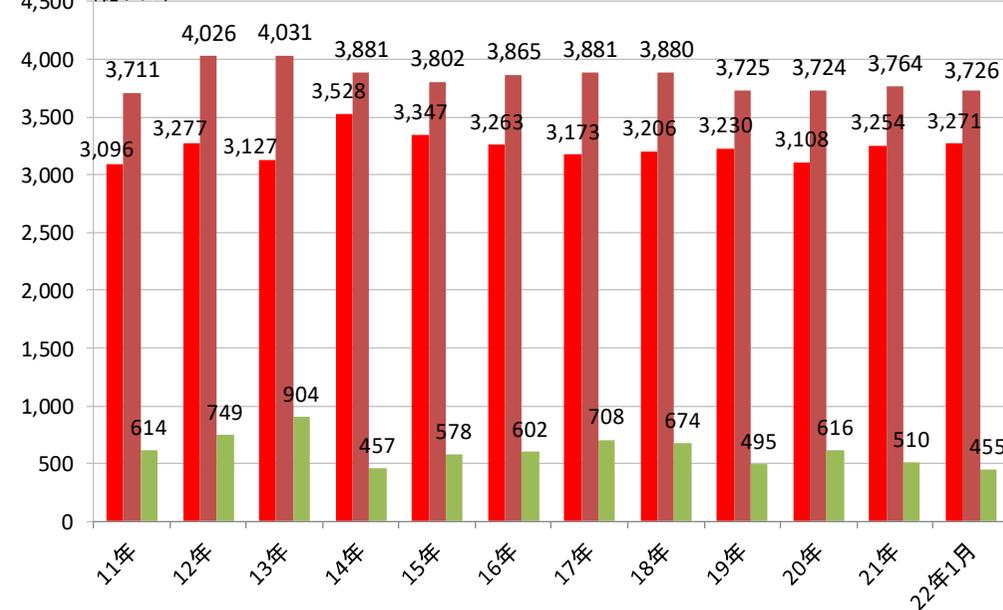
(億ドル)



(出典) 伯中央銀行 ※貸付は除く

### 対外債務・債権収支

(億ドル)



(出典) 伯中央銀行

■ 対外債務残高 ■ 対外債権残高 ■ 対外債務・債権収支

# 為替・株価の推移

3月の為替市場は4.74～5.13リアル/ドルで推移。

月の前半は5.01～5.13リアル/ドルで推移。ウクライナ情勢の他、国内における燃料価格を巡る動向等を材料に上下し概ね横ばいとなった。

月の後半は4.74～5.13リアル/ドルで推移。他通貨との金利差の他、コモディティ価格上昇等を背景とする資源国への資金流入により、リアル高傾向となった。

## 為替の推移(対米ドル)



(出典) 伯中央銀行

3月の株式市場は108,959～120,260ポイントで推移。

月の前半は108,959～115,174ポイントで推移。ウクライナ情勢の他、国内での燃料価格を巡る動向や中国での感染拡大等を材料に概ね下落傾向となった。

月の後半は111,112～120,260で推移。コモディティ価格の上昇や伯中銀総裁による金融引締めサイクル終了が近付いていることを示唆する発言等を材料に上昇傾向となった。

## 株価指数(Ibovespa)の推移

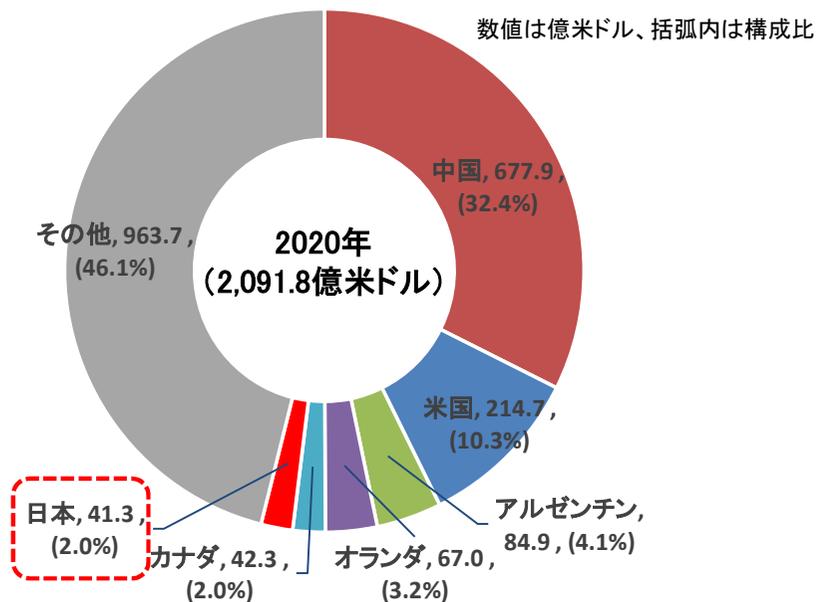


(出典) B3

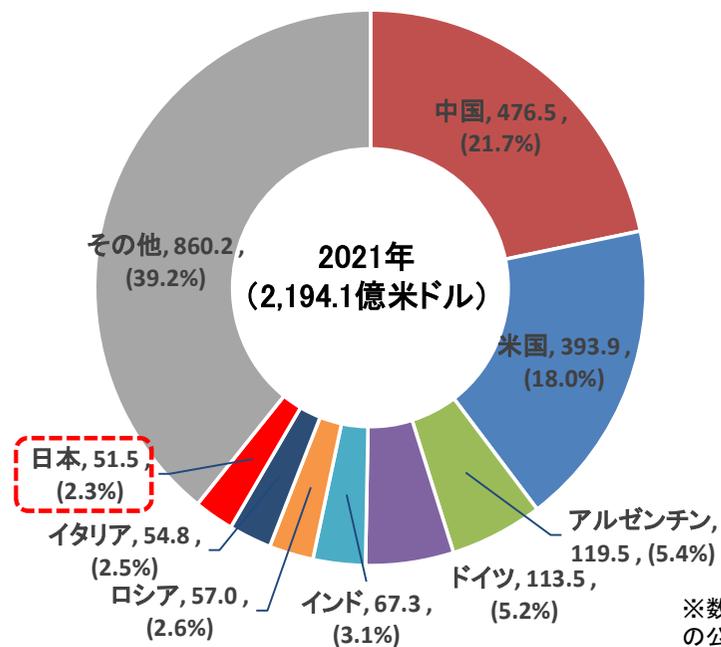
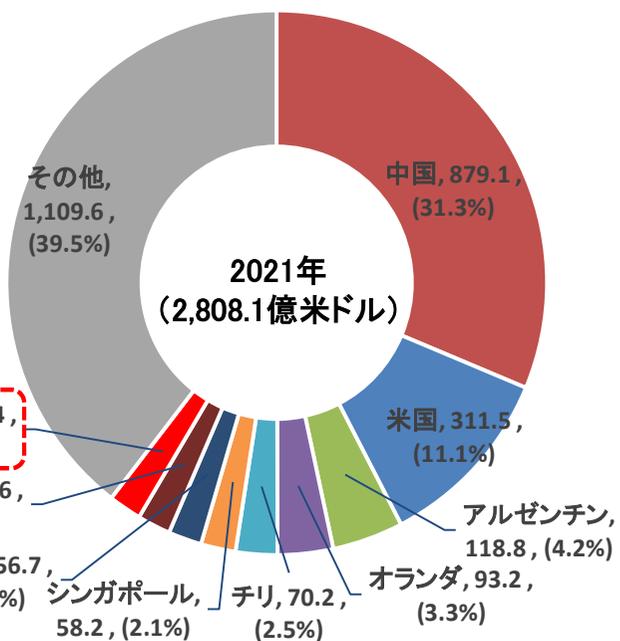
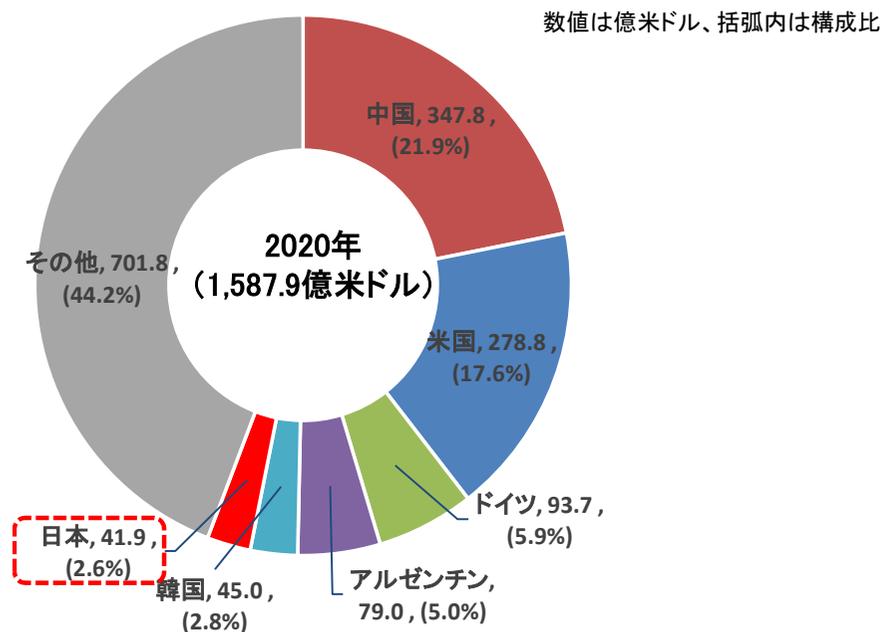
### Ⅲ. 貿易動向

ブラジルの貿易は、輸出、輸入ともに中国、米国、アルゼンチンが上位に占めている。2021年においては、日本は貿易相手国として輸出で9位、輸入でも上位8位となっている。

#### 輸出額と構成比(国別)



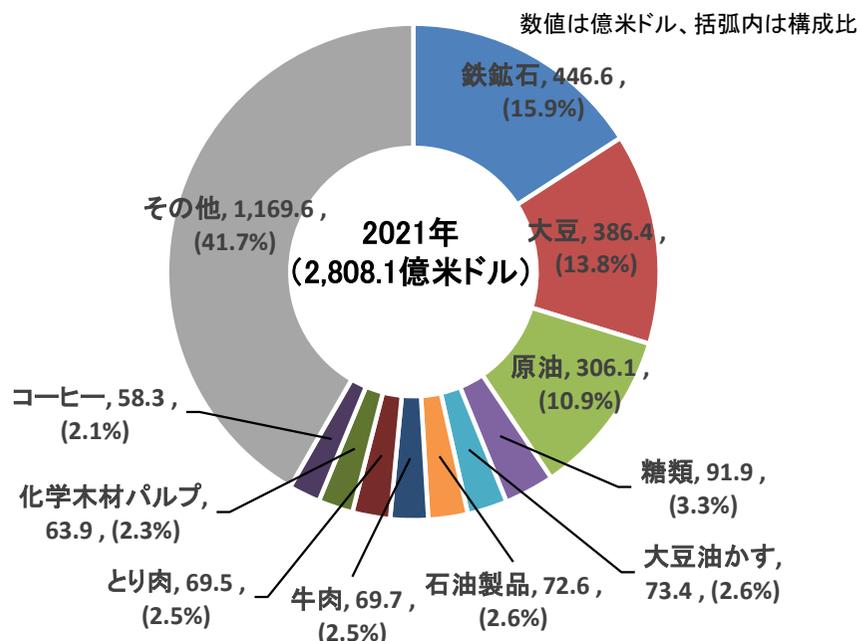
#### 輸入額と構成比(国別)



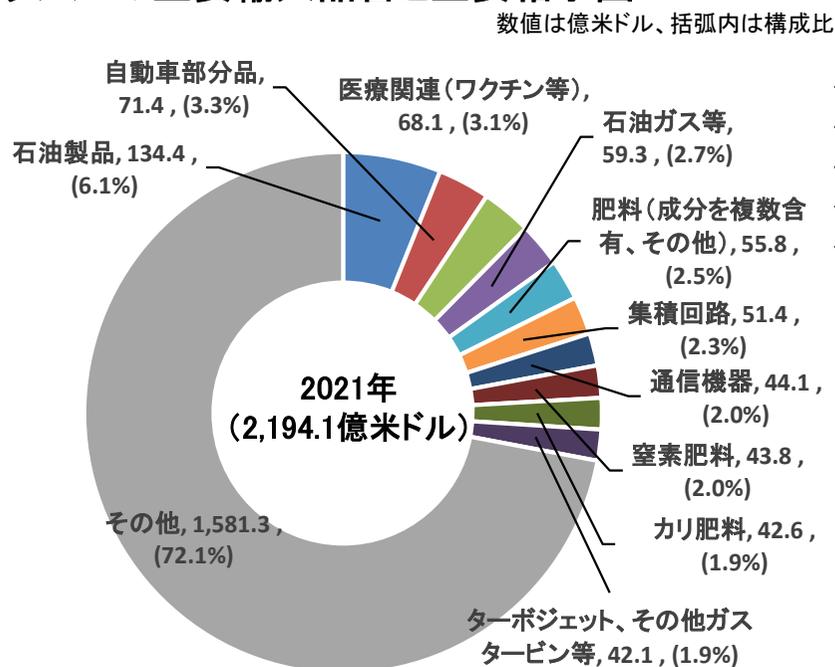
(出典) 伯経済省  
 ※数値は2022年2月時点の公表値から算出

主要輸出品目は資源（鉄鋼石、原油等）、食品（大豆、肉類、糖類等）。主要輸入品目は石油製品、自動車部分品を中心に、電気機器や医療用品など幅広い品目にわたっている。

## ブラジルの主要輸出品目と主要相手国



## ブラジルの主要輸入品目と主要相手国



### 【鉄鋼石】

	億米ドル	構成比(%)
全体	446.6	100.0
① 中国	288.4	64.6
② マレーシア	28.6	6.4
③ バーレーン	17.9	4.0
④ <u>日本</u>	17.9	4.0
⑤ オマーン	13.0	2.9

### 【原油】

	億米ドル	構成比(%)
全体	306.1	100.0
① 中国	142.5	46.6
② 米国	30.8	10.1
③ インド	22.4	7.3
④ チリ	19.6	6.4
⑤ ポルトガル	16.3	5.3

### 【大豆】

	億米ドル	構成比(%)
全体	386.4	100.0
① 中国	272.1	70.4
② スペイン	16.7	4.3
③ タイ	12.9	3.3
④ オランダ	12.0	3.1
⑤ トルコ	10.1	2.6

### 【糖類】

	億米ドル	構成比(%)
全体	91.9	100.0
① 中国	14.1	15.4
② アルジェリア	7.8	8.4
③ ナイジェリア	6.0	6.5
④ バングラデシュ	5.8	6.3
⑤ カナダ	4.4	4.8

### 【石油製品】

	億米ドル	構成比(%)
合計	134.4	100.0
① 米国	74.4	55.4
② インド	13.5	10.1
③ UAE	7.3	5.4
④ オランダ	6.4	4.7
⑤ スペイン	4.5	3.4

### 【医療用品(ワクチン等)】

	億米ドル	構成比(%)
合計	68.1	100.0
① 米国	23.7	34.9
② 中国	12.9	19.0
③ ベルギー	7.8	11.4
④ スイス	5.3	7.8
⑤ ドイツ	4.1	6.0

### 【自動車部分品】

	億米ドル	構成比(%)
合計	71.4	100.0
① <u>日本</u>	9.3	13.1
② 中国	8.8	12.3
③ ドイツ	8.5	11.8
④ メキシコ	6.3	8.8
⑤ 米国	5.8	8.1

### 【石油ガス等】

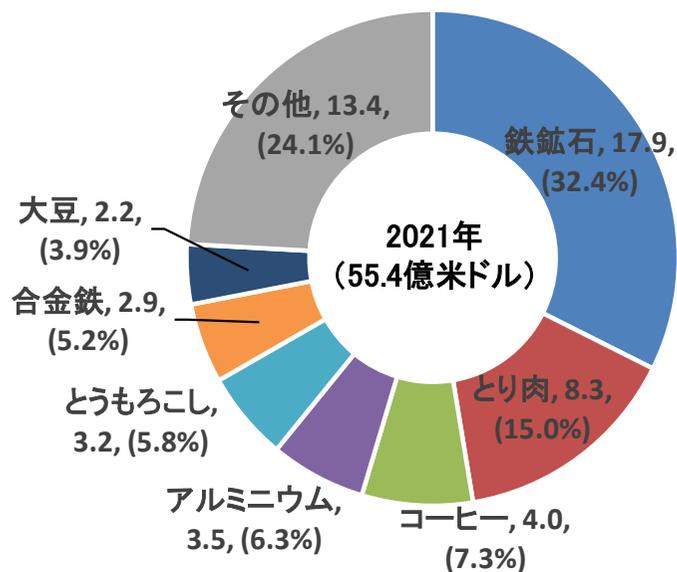
	億米ドル	構成比(%)
合計	59.3	100.0
① 米国	41.8	70.5
② ボリビア	12.1	20.3
③ アルゼンチン	2.8	4.7
④ トリニダードトバゴ	1.5	2.5
⑤ アンゴラ	0.5	0.8

# 対日貿易

対日貿易においては、主要輸出品目は資源（鉄鉱石、アルミニウム等）や食品（肉類、コーヒー、トウモロコシ、大豆等）、主要輸入品目は自動車関連が中心となっている。

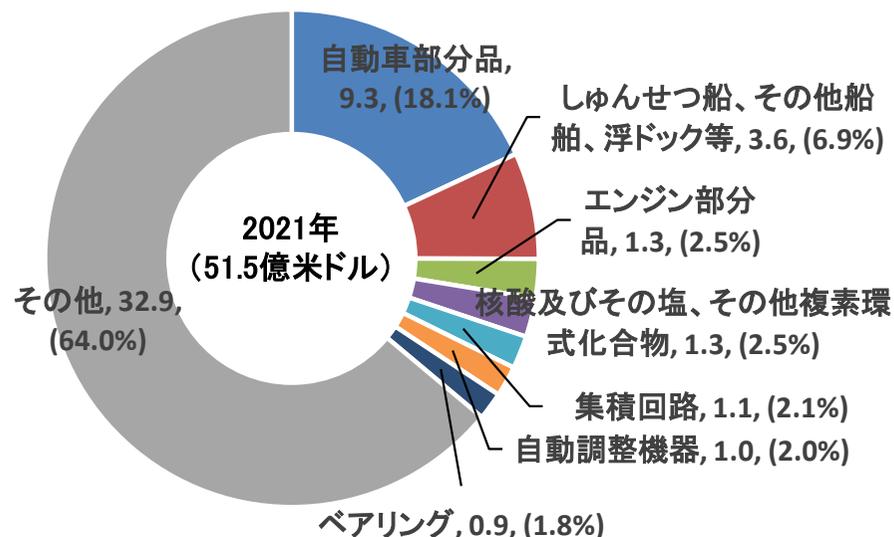
## ブラジルの対日本主要輸出品目

数値は億米ドル、括弧内は構成比



## ブラジルの対日本主要輸入品目

数値は億米ドル、括弧内は構成比



(出典) 伯経済省

※数値は2022年2月時点の公表値から算出

## ブラジルの対日本主要輸出品目の日本側から見たブラジルの構成比(2021年)

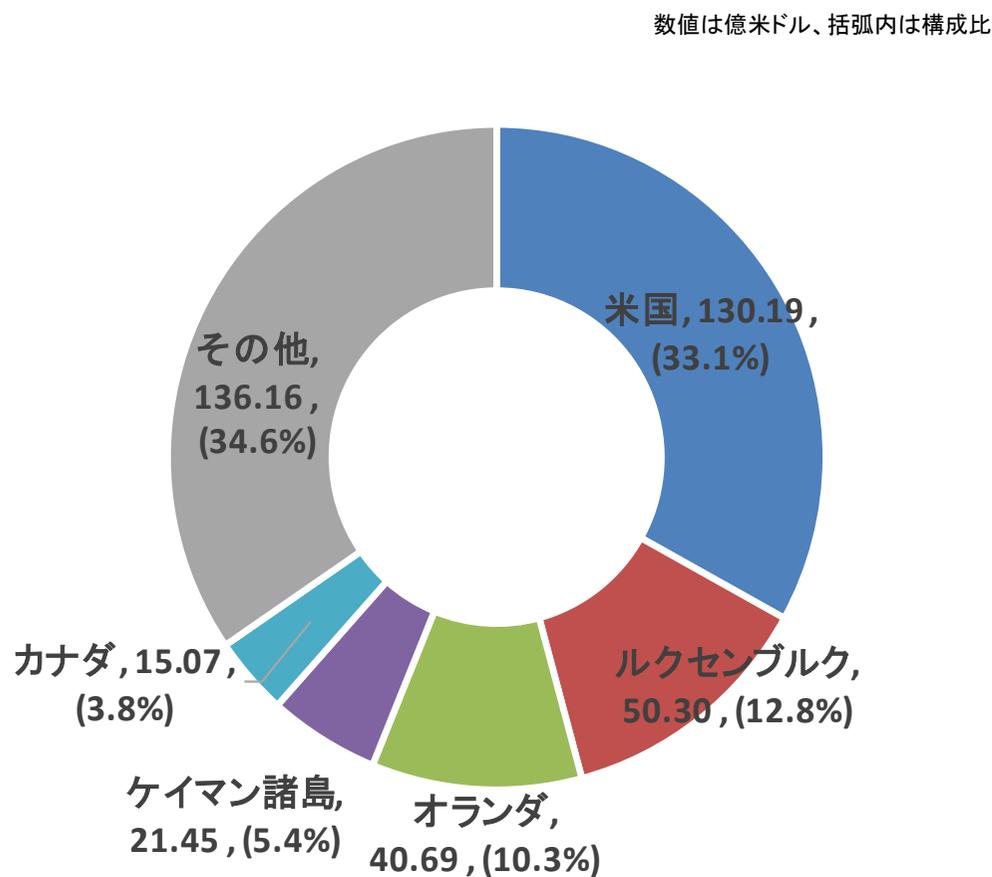
品目	総計	億円	構成比 (%)	順位
<b>【鉄鉱石】</b>	総計	19,656.0	100.0	
①	オーストラリア	10,854.7	55.2	1
②	<u>ブラジル</u>	5,592.5	28.5	2
③	カナダ	1,385.4	7.0	3
④	南アフリカ共和国	715.1	3.6	4
⑤	アメリカ合衆国	275.9	1.4	5
<b>【とり肉】</b>	総計	1,365.9	100.0	
①	<u>ブラジル</u>	889.5	65.1	1
②	タイ	407.9	29.9	2
③	アメリカ合衆国	32.6	2.4	3
④	ハンガリー	15.9	1.2	4
⑤	フランス	10.6	0.8	5
<b>【コーヒー】</b>	総計	1,447.3	100.0	
①	<u>ブラジル</u>	446.9	30.9	1
②	コロンビア	228.8	15.8	2
③	ベトナム	200.7	13.9	3
④	グアテマラ	101.1	7.0	4
⑤	エチオピア	79.3	5.5	5
<b>【アルミニウム】</b>	総計	6,836.6	100.0	
①	ロシア	1,357.5	19.9	1
②	オーストラリア	1,120.3	16.4	2
③	アラブ首長国連邦	1,088.7	15.9	3
④	ニュージーランド	425.2	6.2	4
⑤	<u>ブラジル</u>	382.8	5.6	5
<b>【とうもろこし】</b>	総計	5,199.6	100.0	
①	アメリカ合衆国	3,779.6	72.7	1
②	<u>ブラジル</u>	738.9	14.2	2
③	アルゼンチン	416.2	8.0	3
④	南アフリカ共和国	242.6	4.7	4
⑤	フランス	8.8	0.2	5
<b>【合金鉄】</b>	総計	3,134.2	100.0	
①	カザフスタン	657.4	21.0	1
②	中華人民共和国	453.4	14.5	2
③	ロシア	396.0	12.6	3
④	<u>ブラジル</u>	339.6	10.8	4
⑤	南アフリカ共和国	307.7	9.8	5
<b>【大豆】</b>	総計	2,276.9	100.0	
①	アメリカ合衆国	1,702.9	74.8	1
②	<u>ブラジル</u>	320.2	14.1	2
③	カナダ	226.0	9.9	3
④	中華人民共和国	26.2	1.1	4
⑤	ロシア	1.5	0.1	5

※日伯ともにHS番号4桁の数値。鉄鉱石2601、とうもろこし1005、とり肉0207、コーヒー0901、アルミニウム7601、合金鉄(フェロアロイ)7202、大豆1201

(出典) 財務省(日本)  
※数値は2022年1月末時点の公表値から算出

## IV. 日伯投資

対ブラジル直接投資(資本参加分)の国別構成比  
総額393.86億ドル(2021年)

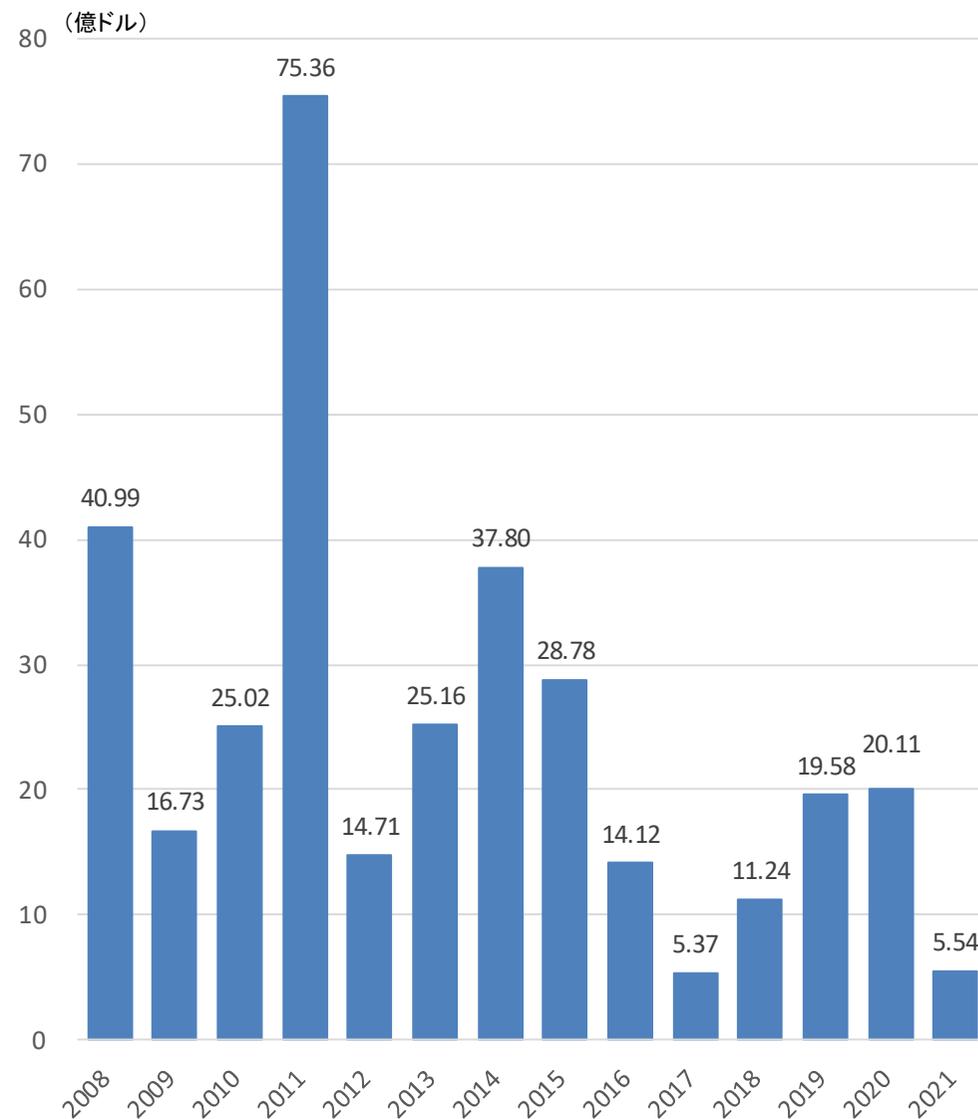


(出典) 伯中央銀行

2021年の日本の直接投資額(資本参加分)は5.54億ドルで構成比は1.41%と、17番目の規模。

※ 中国:2.35億ドル(0.44%)。但し、第三国経由の投資額が含まれていないため、実際よりも少ない数値となっている。

日本の対ブラジル直接投資(資本参加分)の推移



(出典) 伯中央銀行